共立女子大学コレクション

アントン・チェーホフの劇世界

―黄昏の中の輝き―

平成27年3月5日(木)～4月24日(金)
9：30～17：30

休館日：3月10日(火)～3月13日(金)、日曜日・祝日

入場無料

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室

東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線／
「神保町」駅下車A9出口から徒歩一分
東京メトロ東西線／「竹橋」駅下車1b出口から徒歩三分

東京都千代田区一ツ橋2-2-1　TEL 03-3237-2665

アントン・チェーホフの劇世界

―黄昏の中の輝き―

文藝学部の劇芸術研究室は、古くからの演劇資料、中でもポスター・プログラムなどを、数多く収集している。これらは、亡藤木宏幸教授をはじめ歴代の諸先生方が、個人的に集められたものを寄贈して下さったり、あるいは劇団から頂戴した資料である。中には劇団が失ってしまった貴重なものもあり、学外からの使用要請も多い。

これらの資料整理を、文芸学部卒業生の有志からなる文芸OGネットワークの方々が続けてくださって、今年で十年になった。研究室としても感謝にたえないが、その区切りの意味で、日本の演劇界にも重要な存在であるチェーホフの展示企画を立てた。

チェーホフは、「桜の園」や「ワーニャ叔父さん」などの作品によって、日本の新劇界にも、多大な影響を与えた作家である。とくに「桜の園」は、東山千栄子をはじめとして多くの女優によって演じられ、親しまれてきた。新国立劇場では、森光子が舞台を日本に移して演じている。展示には、上演の少ない作品を始め、珍しい資料も公開され、チェーホフと日本新劇界との深いつながりも理解されることになるだろう。また時代を表わす美術品としても、興味深いものがある。

今回も展示のすべてをOGネットワークの皆さんがおこなってくださった。グループの皆さんに感謝するとともに、この展示をとおして学生の皆さんにも資料の重要さを知っていただきたいと思う。

チェーホフ（1860～1904）　ロシアの小説家・劇作家。

中学生の頃より演劇に興味を抱き、モスコワ大学医学部在学中から、短編小説を執筆。1887年、コルシ劇場からの依頼で書いた「イワーノフ」が反響を呼び、劇作家としても注目される。その後一幕物を執筆、96年の「かもめ」を発表する。98年、モスコワ芸術座で上演された「かもめ」は大好評を博し、以降、「三人姉妹」「桜の園」完成させた。彼の諸作品は、日常生活の機微を描きながら、当時の行き詰まったロシア社会をも展望させる広がりをもっている。